

令和3年度

第4回市政モニターアンケート

子ども食堂の取組みについて

北九州市広報室広聴課

目 次

I	調査の概要	3
II	市政モニターの構成	3
III	調査結果	4
	子ども食堂について	4
	フードパントリーについて	1 1
IV	全体考察	1 2

I 調査の概要

調査対象者	市政モニター 150人
回答者数	137人（回収率 91.3%）
調査実施日	令和3年8月9日から令和3年8月23日
実施方法	調査票による郵送及びインターネット調査
調査実施課	広報室広聴課 TEL582-2527
調査依頼課	子ども家庭局子育て支援課

II 市政モニターの構成

R3.5.1

区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	150 (100.0%)	68 (45.3%)	82 (54.7%)	区 別			
10歳代	1 (0.7%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	門司区	15 (10.0%)	6 (4.0%)	9 (6.0%)
20歳代	21 (14.0%)	6 (4.0%)	15 (10.0%)	小倉北区	27 (18.0%)	11 (7.3%)	16 (10.7%)
30歳代	21 (14.0%)	10 (6.7%)	11 (7.3%)	小倉南区	31 (20.7%)	13 (8.7%)	18 (12.0%)
40歳代	24 (16.0%)	11 (7.3%)	13 (8.7%)	若松区	15 (10.0%)	7 (4.7%)	8 (5.3%)
50歳代	23 (15.3%)	10 (6.7%)	13 (8.7%)	八幡東区	12 (8.0%)	5 (3.3%)	7 (4.7%)
60歳代	22 (14.7%)	11 (7.3%)	11 (7.3%)	八幡西区	38 (25.3%)	20 (13.3%)	18 (12.0%)
70歳以上	38 (25.3%)	19 (12.7%)	19 (12.7%)	戸畑区	12 (8.0%)	6 (4.0%)	6 (4.0%)

※モニター総数150名のうち郵送モニター22名、ネットモニター128名

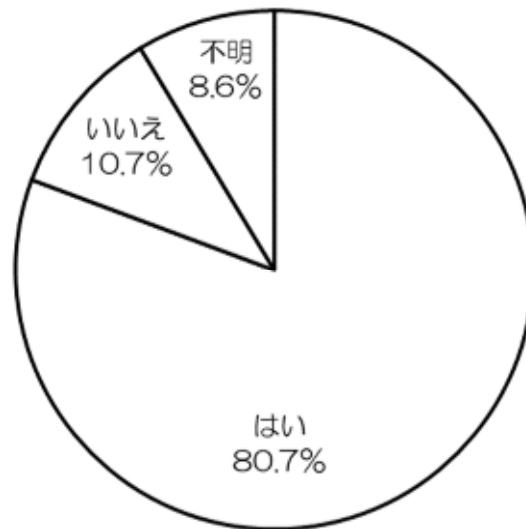
※数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は、一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

【子ども食堂について】

(1) 子ども食堂の認知度

子ども食堂について知っていますか？



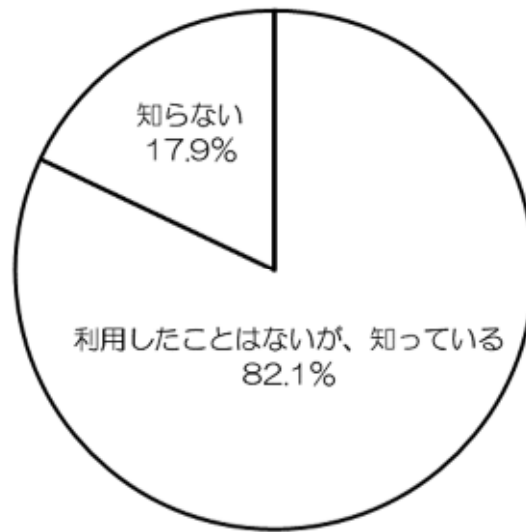
①年齢別

年齢(代)	回答者数(人)	割合 (%)			割合 (%)		
		はい	いいえ	不明	はい	いいえ	不明
全体	150	120	16	14	80.7	10.7	8.6
10代	-	-	-	-	-	-	-
20代	15	11	4	-	73.3	26.7	-
30代	17	16	1	-	94.1	5.9	-
40代	24	18	6	-	75.0	25.0	-
50代	21	21	0	-	100.0	0.0	-
60代	20	17	3	-	94.1	5.9	-
70代	34	31	3	-	91.2	8.8	-
80代以上	6	6	0	-	100.0	0.0	-

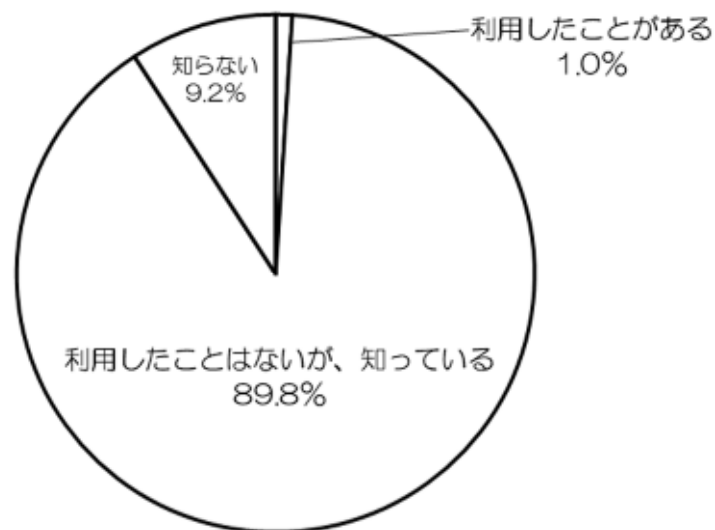
※子ども食堂を「利用したことがある」または、「利用したことはないが、知っている」等と回答した人は「はい」と数え、「知らない」等と回答した人を「いいえ」と数えたもの

②子どもの有無別

◆同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人の場合



◆同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいない人の場合

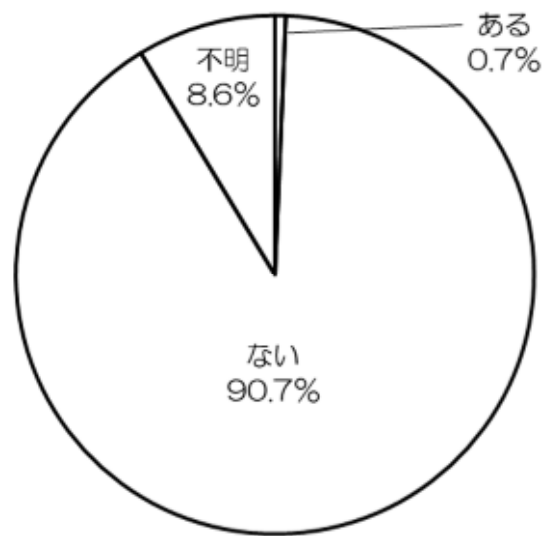


子どもがいる人※ ₁ （回答数39人）			子どもがいない人※ ₂ （回答数98人）		
利用したことがある	利用したことはないが、知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはないが、知っている	知らない
0	32	7	1	88	9

※₁:同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人

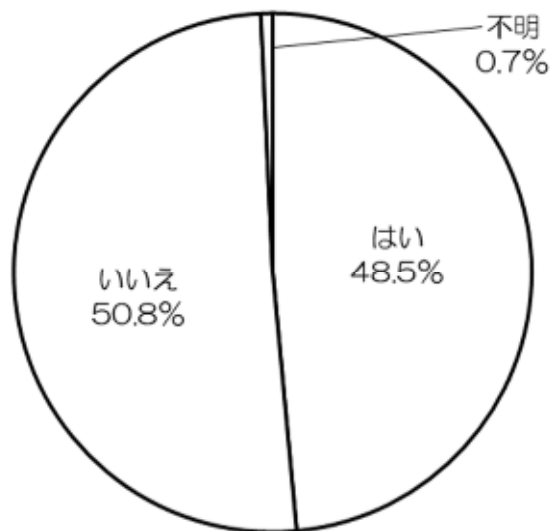
※₂:同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいない人

(2) 子ども食堂への参加について
子ども食堂に行ったことはありますか？



全体	ある	ない	不明
150	1	136	13

(3) 子ども食堂に行ってみたいと思いますか？
 ※子ども食堂に行ったことがない人を対象に質問

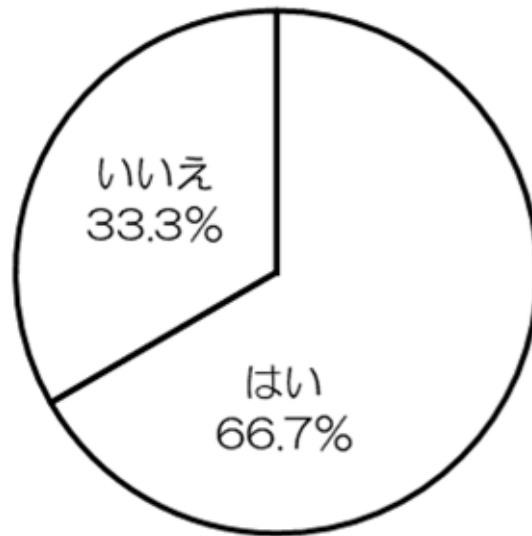


①年齢別

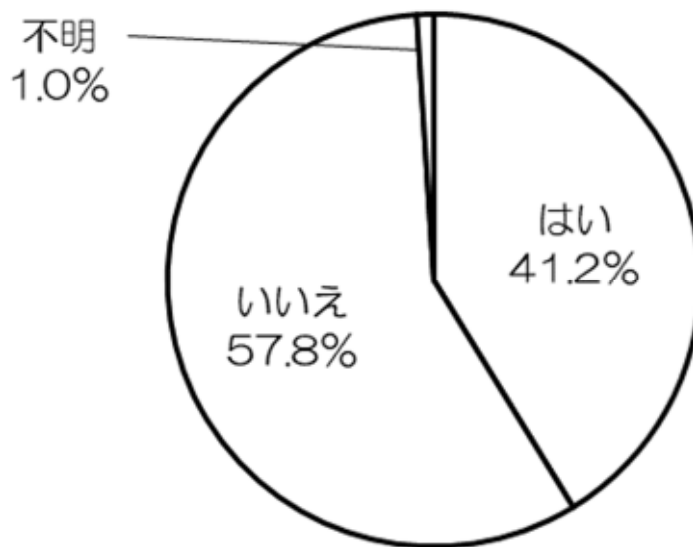
年齢(代)	回答者数(人)	割合 (%)			割合 (%)		
		はい	いいえ	不明	はい	いいえ	不明
全体	136	66	69	1	48.5	50.8	0.7
10代	-	-	-	-	-	-	-
20代	15	12	3	-	80.0	20.0	-
30代	17	11	6	-	64.7	35.3	-
40代	23	10	13	-	43.5	56.5	-
50代	21	9	12	-	42.9	57.1	-
60代	20	6	14	-	30.0	70.0	-
70代	34	13	20	1	38.3	58.8	2.9
80代以上	6	5	1	-	83.3	16.7	-

②子どもの有無別

◆同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人の場合



◆同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいない人の場合

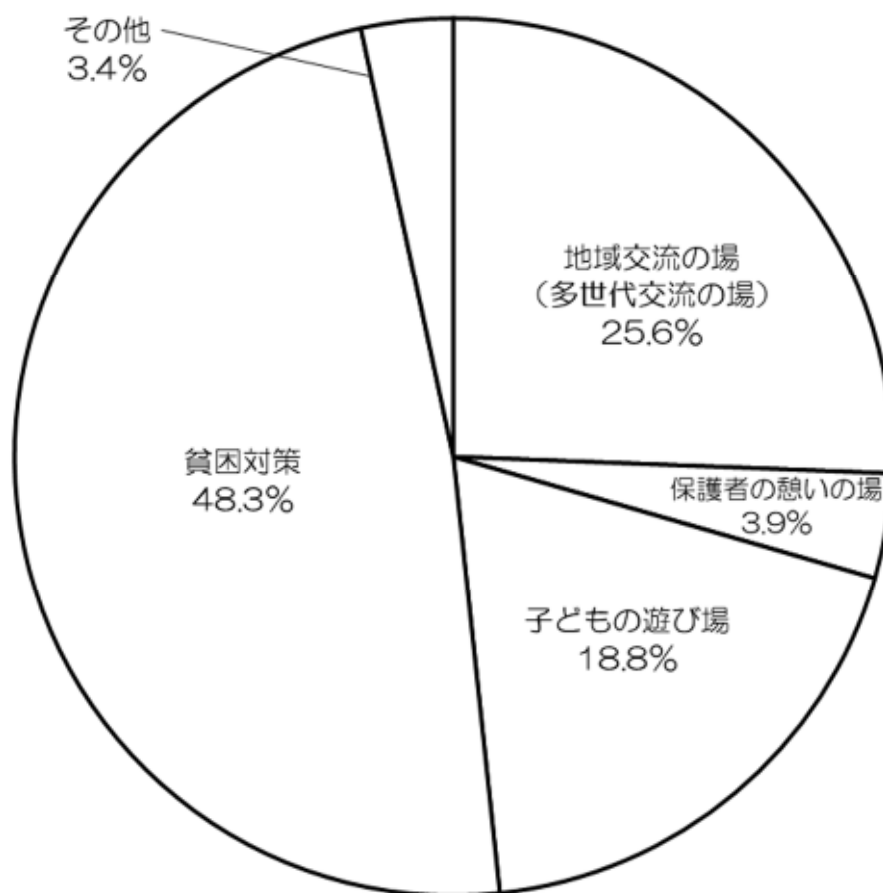


子どもがいる人※ ₁ (回答数39人)		子どもがいない人※ ₂ (回答数97人)		
はい	いいえ	はい	いいえ	不明
26	13	40	56	1

※₁同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいる人

※₂同居もしくは市内に20歳未満の子どもがいない人

(4) 子ども食堂はどのようなところだと思いますか
(複数回答可能)



回答者数130人(内回答数207件)

項目	回答数	割合
地域交流の場 (多世代交流の場)	53	25.6%
保護者の憩いの場	8	3.9%
子どもの遊び場	39	18.8%
貧困対策	100	48.3%
その他	7	3.4%

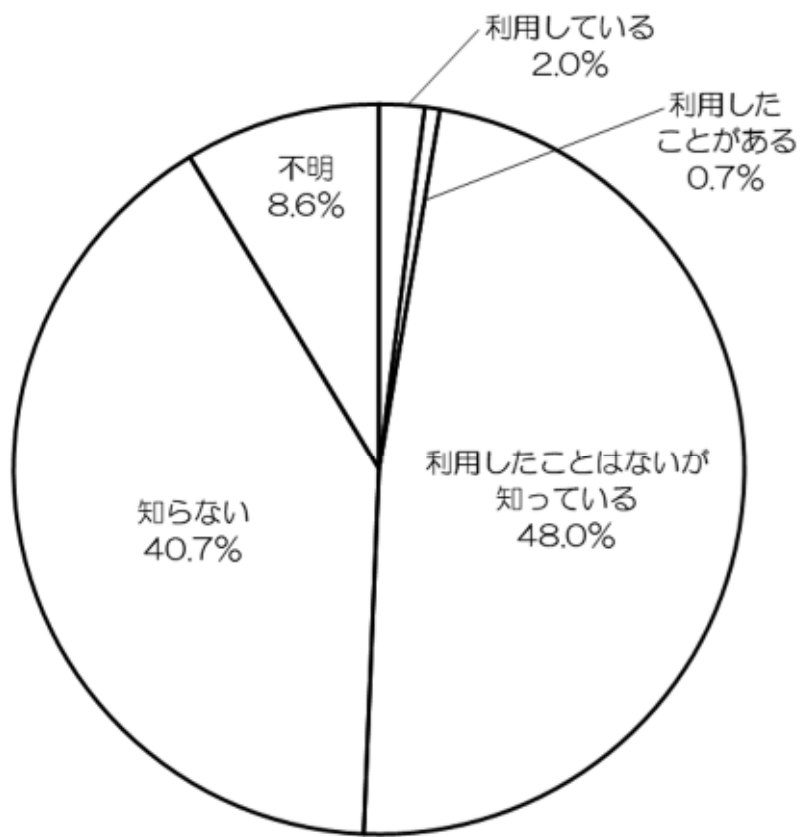
◆その他の内容・意見等

- 食事が十分にとれない子どもへの支援施設と支援活動。
- 子どもの食生活を考える場所。
- 子どもの孤食回避と、それによる家庭内暴力やネグレクト等の早期発見の場。
- 個人や企業の寄付、人的奉仕で成り立っているという認識があるので、保護者として経済的に困っている、また、食事を作ってあげられない状況（病気やケガ）があったら利用してみようと考えている。
ただ、子どもだけでなく、独居の高齢者などの生活に必須になっているというのも、テレビで見たことがあったので、どの世代でも利用できる施設という認識に最近変わった。
それが本来の認識として良いのかどうかは、ちゃんと調べたりしたことがないので、分かっていないが、報道や記事や市政だよりでの知識で、上記のような認識がある。
- 保護者も子どもも自分の家庭だけの事から他の家庭がどの様にして生活しているかを考えるヒントを得ることができる場。特に小学生高学年になると、参考になることをキャッチできると思う。
- 託児所及び緊急避難所。
- 保護者が忙しくて、子どもの食事を準備する時間がない子どもの食育対応。

注) お金があっても準備できなく、簡易食材を利用せざるを得ない保護者の子どもへの食育対応を含む。

【フードパントリーについて】

フードパントリーについて、知っていますか？



IV全体考察

子ども家庭局子育て支援課では、民間の活動である「子ども食堂」や「フードパントリー」に対して支援を行っている。今回、今後の取組みに繋げていくため、認知度等について、アンケートを行なった。

【子ども食堂について】

(1) 子ども食堂の認知度

子ども食堂を「利用したことがある」または、「利用したことはないが、知っている」と回答した人は、全体の80.7%で、50代以上に関しては、その割合は90.0%を超えていた。

また、同居または市内に20歳未満の子どもがいる人と、そうでない人の認知度の比較を行なった。子どもがいる人で、「利用したことがある」または、「利用したことはないが、知っている」と答えた人は全体の82.1%、子どもがいない人のその割合は89.8%と、子どもの有無に関わらず、子ども食堂の認知度が高いことが分かった。

(2) 子ども食堂への興味・関心

子ども食堂に行ったことがない人の中で、子ども食堂に行ってみたいと答えた人は全体の48.5%であり、「いいえ」と答えた人の割合は、全体の50.8%だった。

また、子ども食堂に行ってみたいとの回答は、子育て世帯で66.7%、子どもがいない世帯でも41.2%に上り、子ども食堂が「子どもを中心とした多世代交流の居場所」として認識されていることが伺える。

(3) 子ども食堂の役割

本市では、子ども食堂を地域の多世代交流の場と位置付け、取組みを進めているところであるが、子ども食堂の役割について質問したところ（複数回答方式）、「地域交流の場（多世代交流の場）」が25.6%、「保護者の憩いの場」が3.9%、「子どもの遊び場」が18.8%、「貧困対策」が48.3%となり、多様な役割を持つ活動であると認識されていることが分かった。

【フードパントリーについて】

フードパントリーについて、「利用している」が2.0%、「利用したことがある」が0.7%、「利用したことはないが、知っている」が48.0%であり「知らない」と回答した人は40.7%だった。

フードパントリーは新型コロナウイルス感染症の影響で注目が集まった活動であり、令和2年度の調査では、利用したことがある人は0人、約6割が「知らない」という回答だった。

この結果から、フードパントリーは認知度が高くなっており、関心の強い取り組みであると分かった。

今回の調査結果を参考に、本市における子ども食堂やフードパントリーの支援のあり方について検討していきたい。